

# 小學校入學檢定で感じたこと二つ三つ

附屬小學校主事

堀

七

藏

去る一月、尋常第一學年に入學すべき兒童を決定するが爲めに、入學檢定を行いました。その入學檢定に於て、感じたことを二つ三つ申し上げます。しかしそんなことは幼稚園保育に直接關係がないかとも思はれますが、「幼児の教育」から「何を書け」ご御要求でありますから、止むを得ず、貴重な誌面をふさぐことにいたします。

## 一

東京女子高等師範學校附屬小學校では、一月九日より十日間入學志願者を募集いたしました。その結果第一部に四百二十六人、第二部及び第三部に四百四人の女兒の志願者がありました。そして、第一部の四百二十六人中には、附屬幼稚園から幼稚園主事の推薦で入學するものが二十人ありますから、残りの四百六人が外からの志願者であります。また第二部に第三部には外からの四百四人の他に附屬幼稚園から無抽籤で檢定を受けるものが十四人あります。それから男兒は第二部第三部で九十一人の志願者があり、別に附屬幼稚園から五十人の志願者があつたのでありますから、男兒の合計百四十一人です。

是等多數の志願者中から、第一部では二十人第二部では男女各十二人、第三部では男女各十五人を入學させる豫定であります。それで一月二十日例年のやうな方法で抽籤をいたしました。そして第一部では女兒、一番より七十番まで七十人第二部では女兒七十一番より百二十番まで四十人、第三部では女兒百二十一番より百七十番まで五十人を入學檢定候補者

みなし附屬幼稚園からの十四人を加へて合計百八十四人を検定したわけであります。

また男兒は第二部は一番より四十番まで四十人、第三部は五十一番より九十番まで五十人を検定候補者みなしこの外に附屬幼稚園からの五十人を加へて百四十人について入學検定を行つたわけであります。

## 二

缺席者を除いて實際に検定したものは、第一部、第二部、第三部を通じて女兒が百六十四人、男兒が九十九人でありま  
す。そしてその中から、女兒は四十九人、男兒二十九人を入學者と決定したのでありますから、男女共ザット三人強に對  
して一人の合格であります。そして是等の検定したものの中、幼稚園に行つてゐないもの、女兒では二十八人、男兒では  
十二人であります。それで女兒百六十四人中、僅かに二十八人が幼稚園に行かないもので、幼稚園に行つてゐるものがそ  
他の百三十六人であります。また男兒では、九十九人中僅かに十二人が幼稚園に行かないものであるから、他の八十七  
人が幼稚園に行つてゐるのであります。この點から推定するに、東京市で官公立の附屬小學校のやうな特別な學校に入學  
希望を有する位な家庭では、その子女を幼稚園に入れるものが頗る多いのであります。そして入學合格者も殆ど凡てが幼  
稚園在園者であることは當然さはいへ、幼稚園保育の成績を物語るものでありませう。

## 三

入學検定に於て試みに、「誰と一緒にこの學校に來ましたか」と尋ねたのであります。その答の言葉で、「オカアチャン  
又はオトウチャン」といふものが男六十五人中に七人、女九十六人中に四人ありました。そして是等の子供さんは多くは  
幼稚なものであることが一致した點であります。また「オカアサマ又はオトウサマ」といふものは、男では六十五人中附屬  
幼稚園から來たものに四人あるだけであり、女では九十六人中二十八人の多きに達してゐます。そして附屬幼稚園から來

たもの十人が十人きも「オカアサマ又はオトウサマ」を答へたことは一寸面白い現象であります。これは家庭でも亦幼稚園でも、果して意識的に指導して居られるかどうかと思はれるが兎角普通にオトウサン、オカアサンをいつてゐるのに比べると上品な遣ひ方でありませう。

尙ほ面白いことに、今年は「ママを來ました」を答へたものが、女兒九十六人を通して僅かに三人であつたことでもあります。外國に於ける生活の情性で「ママ」を呼ばしめてゐるものを除いては、全く「ママ」を呼ばしめてゐる家庭が少いことを物語るものでありませう。松田文相がママ、ババの使用を攻撃せられた影響も多少あるかも知れないし、日本精神の鼓吹、國粹主義の普及によるかとも思はれます。

#### 四

検定の問題として、繪本を觀せていろいろのこみを尋ねて見たのであるが、この方は一般に成績がよいのであります。繪本の普及によつて幼稚園でも家庭でも、繪本を見るこみが多く、その繪について答へるこみは、幼兒にまつて割合に容易なこみであるからでありませう。次に範畫を三十秒位觀せて置き、その觀たものを觀た通りに畫かせたのであるが、これは割合に成績がよくないのであります。これは繪を注意して觀るこみが少く、觀たものを記憶してゐて直に表現するこみが幼兒の生活に比較的少いからでありませう。尤も親や保母から教はつたものを器械的に畫くさいふものの中にはあります。所謂教はつたものを畫くために、検定者の與へたものをよく見ないものもあります。

検定の中に、「君が代は」だけを國歌の節で歌つて、それを幼兒に眞似て發表させたのであるが、調子はづれのものはあまり多くはないが、發音の悪いものが少くないのであります。幼稚園保育に於て、幼兒の發音を正しく指導するこみが肝要であります。家庭に於ても幼兒の言葉に注意して正しく發音するやうに指導せねばなりません。片言まじりにしや、

るのを可愛らしいとして、許容するのみならず、時には推賞するやうなこじがあるが、それは適當ではありません。成るべく正しく發聲をなさしめて發音の練習を行はしめる工夫が何よりも肝要であります。

## 五

小さな箱にキッチンを入れるここの出来る積木を箱から出して元のやうに箱に入れるこじを作業させて見たのであるが、これは一般に成績がよくないのであります。兒童の工夫力構成力がどんな有様かを檢するこじを目的とした問題であります。第一に兒童の中には是非もこの通りに入れて見ようとなす意慾の頗る薄弱なものもあれば、また同じ失敗を繰返すだけで、いろ／＼に入れかへて見るこいふここの足りないものなきいろ／＼あります。これは幼兒のこじであるから一般に成績の悪いこじは豫期したところであるが、次のやうな結果になつてゐます。

女兒一六四人の得點は四四七點で、一人の平均得點は二・七五點であります。附屬幼稚園から來た女兒十人の得點は三四點であるから、一人の平均得點は三・四點であります。

また男兒九人の得點は三〇三點であるから一人の平均得點は三・〇六であります。附屬幼稚園から來た男兒三四人の得點は一〇八點であるから一人の平均得點は三・一八點であります。故に男兒一人の得點は女兒一人の得點よりも〇・四三點だけ多いのであります。また附屬幼稚園の男兒一人の平均得點よりも女兒一人の平均得點は〇・二二點だけ多いのであります。それで家庭に於ても、亦幼稚園に於ても積木遊びをさせるこじには、單に大人の積んだものを模倣させるだけでなく、幼兒がいろ／＼工夫して積木遊びをなすやうに指導するこじが肝要であります。

## 六

數種類の似た木の葉を並べて置き、その中の一枚と同じ葉を見付け出させて兒童の觀察する力を檢したのであります。

「蜜柑と林檎とどっちが違つてゐるか」といふ問題ならば蜜柑の觀念と林檎の觀念とを比較してその相異點を見付け出すのであります。しかし入學検定などでかゝる問を出すに、初めの日には不意に問はれるので、實際に蜜柑と林檎との觀念について比較をなすのでありますが、豫め練習して來た者には、大人からの丸暗記で答へるこゝになります。殊に第二日、第三日になれば、第一日で問題が往々幼稚園や保護者に漏れるので公平を缺きます。それで成るべく實物を觀せてその相異點を見付け出させるのであります。しかし今年の問題は實物を觀て、似たものを見付け出すのでありますから、異なる點を見付け出すよりも、一般には難題であります。しかし六枚の葉をすつと觀て行けば同じ葉があるのであるから、少しく注意して觀察する兒童には、直に明白に答へられるのであります。それにもかゝはらず物を注意して觀るこゝが練習せられない結果、一般に成績が悪いのであります。

女兒一六四人の總得點が五二二點であるから、一人平均得點が三・一八點であります。また附屬幼稚園女兒十人の總得點は三七點でありますから、一人平均三・七點であります。男兒九九人の總得點は二六六點であるから一人の平均得點は二・六九點であり、附屬幼稚園男兒三四人の總得點は九一點であるから一人の平均得點は二・六八點であります。この結果から見るに、女兒の平均得點は男兒の平均得點よりも〇・四九點多く、附屬幼稚園女兒の平均得點は一・〇一點も多いのであります。これは男兒には不注意なものが多いため、一般に平均得點が低下してゐるのであります。

試みに男女によつて得點の人數を比較して見るに次の如くであります。

	女		男	
五點のもの	一六四人	九九人	二一人	二三人
四點のもの	三四人	二一人	二一人	一八人
三點のもの	三九人	一四人	一點のもの	一七人
二點のもの				一五人

三點のもの 三八人 一九人 零點のもの 四人 一二人

これで見ると、女兒では零點のものが一六四人中僅かに四人であるが、男兒では九九人中一二人もあるから、男兒には零點のものが頗る多いことになります。しかし五點を得たるものは、女兒では一六四人中三四人であるから、その歩合は二〇・七であるが、男兒では九九人中二人であるから、その歩合は二・二であつて、男兒の方が歩合はよいのであります。それで觀察に於ては男兒の方が個人差が著しく、觀察力のすゝんだものもあるが、また著しくおくれたものがあることを明白に示すのであります。

## 七

また數觀念の檢定をしたのでありますが、この方では女兒一六四人の總得點が五六五點でありますから、一人の平均得點は三・四五點であります。そして附屬幼稚園女兒十人の總得點が四一點でありますから、一人の平均得點は四・一點であります。ところが男兒九九人の總得點が三二四點であるから、一人の平均得點が三・二七點であります。尙ほ附屬幼稚園男兒三四人の總得點が一四點でありますから、一人の平均得點は三・三五點であります。従つて附屬幼稚園女兒の平均得點は女兒全體のそれに比して〇・六五點多く、女兒全體の平均得點は幼稚園男兒のそれに比べて〇・一點多く、男兒全體の平均得點に比べて〇・一八點多いのであります。

凡て幼兒の數觀念は、實際に事物を數へることによつて發達するものであるから、家庭生活に於ても亦幼稚園の保育に於ても、成るべく機會を捕へて事物を數へることを多くせねばなりません。數觀念をもにした數計算などをさせることは寧ろ禁物であります。有ゆる機會に於て數へることを盛に行はせることが十以下の數觀念の發達を促がす唯一の道であります。